



# 国 労 仙 台

No. 2582  
2010年5月20日  
発行責任者 橋本 昭二  
編集責任者 武田 昌仙

## 二度と惨事を繰り返さない

### 宮城・福島で 安全問題を検証する集会

地方本部は4月23日、宮城・福島両県において、安全問題を検証する集会を開催した。  
この集会は05年4月25日、鉄道史上最大の惨事となったJR西日本福知山線で発生した脱線・転覆事故、同年12月に発生したJR東日本羽越線での脱線転覆事故、翌年1月、西日本備前線で発生した作業員触車死傷事故に鑑み、二度とこのような悲惨な事故を発生させないため、職場の安全問題に対する取り組みの強化を図ることを目的として開催されている。

#### 宮城県集會から

宮城県集會は、こくろう会館において、地本中島副委員長挨拶で開会され、集會の冒頭、福知山線での犠牲者107名と、以降発生した事故の犠牲者に対する黙祷が捧げられた。  
主催者を代表して橋本地方本部委員長は以下の挨拶を述べた。  
福知山線事故以降も重大な死亡事故が連続して発生した。地本では事故の教訓に学び安全問題を追及し続けていく意味で、「安全問題プロジェクト会議」を設置し、議論した内容を基に交渉に押し上げる取り組みを行ってきた。残念ながら

について、支部・分会集會等を開催し、しっかりと組合員に伝えて意思統一を。

#### 問題提起 安全問題プロジェクトより

安全問題プロジェクト会議（事務局長・地本大沼業務部長）から次の提起がされた。

JR西の歴代3社長が強制起訴。事故の責任は現場の労働者という理不尽がまかり通っていたが、経営トップの責任が追及されようとしている。地道にこうした運動を取組む必要がある。

JR直轄社員事故は減っているが、P社・関連会社の社員が犠牲になっている。この労働条件をしっかりと見ていかないと事故はな

らなくなる。引き続き全体で事故撲滅を目指し、労働条件の確保と安全な職場を作る取り組みをしていく。

#### 電気協議会から報告

続いて、仙台地本電気協

5・1 メーデー  
5・9 10春闘中間総括集會  
5・11 第7回地本執行委員会

議会の立山昭仁氏（仙台電カ区分会長）より、昨年9月に発生した新幹線仙台駅構内での労災死亡事故について、報告を受けた。

概況。トオリ線張替作業中に、2トンを超える応張力が掛かっていたトオリ線が仮ハンガーから外れ、作業員の胸を強打、手擦りに弾き飛ばされ受傷し死亡。

本人の直近一週間の勤務状況は夜勤5回・日勤6回であり劣悪。もうひとつ、もはや「危険な作業」という認識はなくなっていたと推察される。まさに奴隷同然の扱いである。

団交で会社にこうした実態を質したが、会社は「電設の就業規則でありJRが口を出す問題でない。施工方法も請負会社に任せている」の一点張り。車両を貸与している会社としての責任逃れに懸念で、あたかも受傷した本人が危険な位置に立っていたため巻き込まれたと言わんばかり。

会社の事故報告や「青信号」にも時間短縮の手段として仮曲引を省略していた事実に触れていない。

事故の引き金になった緊急停止ボタンが扱われた後の対処方法についての教育が不十分であったことは会社も認めている。新型車両による工法での作業は大幅な時間短縮が目玉であったが安全の担保（仮曲引の取り付け）が取れていないという落とし穴があった。事故原因は仮曲引の取り付けを省いたことにあるのだが、それに対する責任は今も明確でない。JRは電設に、電設は作業員に被せる。死人に口なしの様相。警察・労基署の結論はまだであり、どのような結果になるかわからない。

安全ビジョン2013では関連会社・社員の死亡事故について謳っており、またた3現主義も言われている。しかし団交における会社の回答や姿勢では、この悲惨な事故はなくなり、繰り返されるのではないかと、日本電設は5年前、奥羽線で感電死亡事故を起し、一昨年、黒磯でも感電死亡があり、今回の事故。また表面化していないが、夜勤を終えて、更に材料運搬中、公衆を車で撥ね死亡させる事故もあつた。劣悪な労働実態から倒れたという話も聞く。更に電設の下請け会社の作業員は20連夜の作業を強いられ、当たり前のように「人となつて」と電設社員に言いつつ、「俺も同じだ」と返答が。電設の労組も対応が鈍く、大変な状況。営利を優先するあまり、

安全に対する投資が足りないことが、一連の事故の大きな要因の一つにあると考

える。また承知の通り、P社はJR幹部社員の天下り先であり、夏は涼しく、冬は暖かい場所です仕事をして

いるが、その下で労働者が大変な思いで作業をして、こうした事故が起きている。ここにもメスを入れてい

かなければならない。設備メンテナンス体制の再構築から8年が経過。技

士の膨大な業務量、メセの夜勤の多さ。大変な労働強化と加齢もあり、結果、本来その改善に力を注ぐべき

ある現状がある。しかし自分の子ども達が働きやすい環境を作り、残す為にも頑

張りたい。

【報告：石川けんじ事務局長】



報告する立山分会長

#### 活動レポート

国労仙台地方議員団（佐藤幸夫団長・6名）は4月15日～16日の両日、研修会を開き、喜多方市と会津若松市のまちづくりや議会改革などを調査・視察を行いました。  
両市とも、地元のもを魅力あるものに磨き上げ、観光資源やまちづくりを生かしていることや、議会改革では、会津若松市議会基本条例と政策形成サイクルについて学びました。  
「ラーメンと蔵のまち」喜多方市では、「蔵公開事業と案内人養成」について観光交流課から説明を受けた後、観光コンシェルジュの案内で、市内視察を行いました。観光客のリピーターが多い喜多方市では、4,100棟もある蔵の一部を公開するだけでなく、醸造蔵や店蔵、座敷（住居）蔵などを公開しているほか、その蔵の歴史や財産（お

蔵の方を説明する参観資源におおいに議員団の「政策報告行した。同会市の二あ多くの今日、多くの示唆を与えています。また、同市の「中心市街地賑わい再生事業」では、国の制度と交付金を活用し、閉店したデパートのテナントを商店街の空き店舗に誘致し、商業機能や交流機能を維持する取り組みを行っています。商店街を「平行移動するデパート」（デパートは縦移動）と位置付けた取り組みに、興味深く視察を行いました。  
【報告：石川けんじ事務局長】

### 議員団が研修会を開催

取組みは、市の二あ多くの今日、多くの示唆を与えています。また、同市の「中心市街地賑わい再生事業」では、国の制度と交付金を活用し、閉店したデパートのテナントを商店街の空き店舗に誘致し、商業機能や交流機能を維持する取り組みを行っています。商店街を「平行移動するデパート」（デパートは縦移動）と位置付けた取り組みに、興味深く視察を行いました。  
【報告：石川けんじ事務局長】



# 共に学び合おう

## 10春闘中間総括会議

5月9日、地方本部は各支部、分会の代表者を招集し、10春闘中間総括会議をこくろつ会館において開催した。集会では10春闘における闘いの経過の総括と今後の取り組みの意思統一を図ることを柱に、多岐に亘り報告と討論がされた。なお紙面の関係上、福島、宮城両支部の報告を掲載し、他支部等は次号に掲載する。

### 福島県支部

#### 小檜山委員長



春闘経過。2月6日に支部春闘討論集会を開催。一人一要求を基本に、現場長との交渉実現を目標に取り組みをしてきた。その総括を昨日郡山において全分会・全班交流会として中間総括を行った。

総括の柱は、春闘総括、組織強化・拡大、職場実態（異常時の対応等）である。では、貨物のベアゼロと定期昇給の先送り。ストで闘いをとの声が大きく、支部から本部へスト配置の具申書提出に向けて、前段に貨物の全体集会で意見交換

その中では「貨物会社の杜撰な経営と構造的矛盾があり、政策を変えなければ打開不可能」「遅れても定期昇給があればストは不要。ただ10月以前に退職する仲間の扱いに不安」「不採用問題の和解や採用に悪影響の可能性。慎重に」「コーポレートカード廃止。子供の帰省が新幹線から在来線に。是非ストで闘いを」

「期末手当の1・5ヶ月は残業手当程度の感覚でないのか」「若い人は生涯賃金が上がらないという切実な問題であり伝えている。ストは組織の拡大に繋がる」「ストを打つ、打たないの議論だけでなく、支部との意見交換は良かったの声」

29日の抗議集会に對しての御礼も。貨物職場改善では郡夕の照明改善、構内用自転車の交換など、現場長交渉の結果である。若松地区では集会の定例化と一人一要求の集約を目標に。

現場長との交渉。只見線の駅で話し合い。郡山では保線区分会の在来線が要求書の提出、幹線は提出に至らず。福島地区では昨年の「福島事件」を教訓に取り組み強化を図るも実現に至らず。組合員同士の繋がりを強化する取り組みを実施。では郡山駅連と郡山信通分会で組合説明会を実施。保線では職場歓迎会に参

加するなど会社の姿勢に變化も。何よりも関わってきた役員の方々の変化が大きな成果。では若松地区から「吹雪により列車に7時間も乗客が閉じ込められた」「車両故障により踏切鳴動停止作業を信通社員が行っていたところ」に輸送指令から連絡も無く列車が進入、あわや重大事故」「列車遅れの案内が拙い」「駅の社員を首にしる」「JR西のよつに日勤教育を」などネットに書き込みが、「S-L運行時の鉄道マニアのモラルの悪さ」煙に踏み入り、民家の軒先に立ち入り、注意すると「何だこの社員は」と投書される危惧もあり、注意もためらう」という声。異常時のトラブルなど、支部として意思疎通を図り団交を開催することを確認してきた。

JR不採用問題。雇用問題を課題に残すが、一定の整理が。仙台・水戸両地本と福島県平和フォーラム共催の報告集会を6月12日に開催する準備を進めている。前段5月12日に県内主要単産オルグを予定。組合差別問題を解決に導いた意義は大きく、自信を持って運動を展開していく。

### 宮城県支部

#### 秋山委員長



春闘経過。2月12日、不採用問題の早期解決と10春闘勝利に向けた決起集会に60名を結集し意思統一。2月28日には拡大支部委員会を開催し、一人一要求と分会要求、会社施設での集会和現場長交渉など、春闘勝利に向けた取り組みを組織強化・拡大に結びつけ、また不採用事件の早期解決、ダイヤ改正・合理化に対する取り組みの意思統一を行った。

職場実態。「介護があり、妻の実家から出勤したがJRが遅れて出勤遅延。会社の賃金カットは不当」「10年連続ベアゼロ、超低額の期末手当でローンが支払えない。子供の進学で悩む。是非ストで闘いたい」「55歳で57歳の賃金カット」「工

ルダール制度の見直し」など多くの意見が。各分会の取り組み。職場施設を利用した集会は、小牛田運輸区、仙台信通、仙台建築等で開催。3月5日、6日の集会には272名の参加。創意工夫した早朝チラシ配布など積極的に展開。会社の不当人事。「東北工事事務所分会の佐藤さんに対する秋田第一建設への遠距離出向発令」「小牛田運輸区分会の八巻さんに対する宮城野運輸区への異動発令」など、何れも本人希望を無視したものの、3月29日、地本の貨物へ再回答を含める緊急集会直後に、支部はこの出向・配転に対する抗議・激励集会

を開催し70名を集約した。集会では、不当移転配転とベアゼロ等に対する抗議の意思表示として、一人一人の気持ちを書いたジャンボ八ガキを集約し、翌30日に本社・支社に送付。しかし30日に東本と本社が妥結。「妥結後に抗議とは何か」と会社から批判が生じたが、切実な実態からのやむを得ない行動だ。小牛田では東労組が本人希望にそわない配転に苦情処理を行い、掲示板に抗議文を掲示した模様だが、組合が組合員の声を大切に闘うことは当然。だが会社は一度自分達の実態を点検し、要求として集約し闘い続け

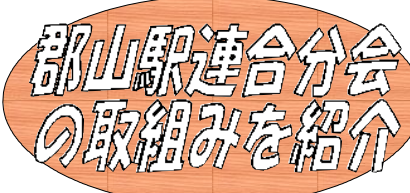
ることが重要。不採用事件。長い期間であったが、闘ってきたからこそ解決案を勝ち取ることが出来た。労働組合は一人一人の組合員を大事にし、一人の首切りも許さず、会社とぶつかり苦しんでいる組合員を助けていくべきであり日常の取り組みが重要。組織強化・拡大。新採者対策を取組んだが、会社は勤務時間内に寮に連れて行き、また時間外の組合の説明会を了承していたにも関わらず、直前に取り消す行為もあり、支部としての取り組みは実施できず。今後、組対会議で総括し、組織拡大に向けての提起をしていく。【他支部は次号】

自由、国た困で労せず、自由がある。職場で一人でも遠慮せずに話を。地方本部から加した五十嵐記と東日本本部武田自身の役割を説明。その後、分会から横山俊美氏、佐藤歳子氏、齋藤嘉一氏がそれぞれ歓迎の言葉と挨拶を述べた。30分間、新採者は真剣に耳を傾け、緊張感の中にも労働組合と国労の存在を知らせる行動として意義のある行動であった。

# 組合説明会を開催 郡山駅配属の新入社員 11名に対して説明会

郡山駅連合分会では、4月22日、昨年に引き続き郡山駅会議室において、新入社員に対しての組合説明会を開催した。今年度は「新採者への組合勧誘において、特定の組合に便宜を出来ぬ」と駅会議室使用を断ってきた経過もあり、駅分会では三組合合同の組合説明会を東労組とジェイール東労組に呼びかけ実現したもの。

本年度採用の新採者13名のうち11名の社員を迎え、国労は2番目に説明。千葉書記長の司会で進行され、入社のお祝い言葉として佐藤正彦分会長は、「職場には労働組合が3つあり、



加入する自由と脱退する自由、加入しない自由がある。職場で働きやすい環境があれば、悩まず相談する。地方本部から加した五十嵐記と東日本本部武田自身の役割を説明。その後、分会から横山俊美氏、佐藤歳子氏、齋藤嘉一氏がそれぞれ歓迎の言葉と挨拶を述べた。30分間、新採者は真剣に耳を傾け、緊張感の中にも労働組合と国労の存在を知らせる行動として意義のある行動であった。